

空間描写の言語技術の中の伝達に関する試論

日大生産工(院) 笹野亮介
日大生産工 山岸輝樹

1. はじめに

「言語技術とは、英語の Language Arts の訳語であり、それは文字から語彙、綴り方、文法、そして聞き方、話し方、読み方、書き方、考え方までを包括的に含む、言葉を操るための全ての技術の総称である。」参考文献(1)というように、言語技術は言葉を操るための技術であり、多くの分野において必要とされるスキルである。建築の分野では、デザインの説明やプレゼンテーションなどに用いられる。しかし、他の分野の説明と違い建築分野はデザインの説明から環境の説明等高度な説明が要求されると考えられる。これより、今回ここでは、この研究の意義と位置づけ、プレ調査を通しての今後の展開について述べたいと思う。この研究の最終的な目的は『空間を言語でどのように伝えれば伝わるのか』の言語技術について明らかにすること』を明らかにすることである。

2. 空間描写の言語技術

この章では、ワレン・ウィーバーの「通信モデル」(図1)を例として挙げ、自身の研究がその通信モデルのどの位置付けにあるのかを説明する。

2-1 通信モデルと人間の情報伝達モデル

まず、ワレン・ウィーバーの「通信モデル」について説明し、それを人のコミュニケーションに置き換えた際どの様になるのか、「人の情報伝達モデル」として説明していく。

□通信モデル(図-1)

- ①情報源の中からメッセージを取り出す
- ②メッセージは送信機を通して、「信号」に変化する。これを「符号化」という。
- ③信号は通信路を通り受信機へと向かう
- ④受信機は、送信機とは逆の操作をするものであり、送信された信号をメッセージに戻し、このメッセージを受信者に届ける。
- ⑤通信が行われる過程では、情報源が意図したわけではない、何らかのものが信号に加わるという不運な特徴がある。送信される信号に起こるこれらの変化は全てノイズと呼ばれ

る。

□人の情報伝達モデル(図-2)

- ①送信者の脳の中から伝えたいもの(メッセージ)を取り出す
- ②メッセージは送信者の発声器官(送信機)を通り、言語になる
- ③空気中を通り受信者の耳、内耳神経(受信機)に向かう。
- ④受信者の脳が言葉をメッセージに戻す
- ⑤同じ

2-2 情報の変化

上記で述べたように、メッセージは送信機を通ることで信号に変換する。人のコミュニケーションでも同じように、伝えたいこと(メッセージ)は脳で“相手に伝わりやすいよう”または“伝えやすいよう”に変換する。このように、メッセージは信号へと第一の変化をする。これがこの信号が正確に受信者へと伝達されればいいのだが、受信者へ届く際に第二の変化が生じる。それが、「受信機から受信者」の部分である。

本研究では、この第一の変化また第二の変化を調査、研究していくことで、最終的に目的の『空間を言語でどのように伝えれば伝わるのか』の言語技術について明らかにすること』について明らかにしていく。

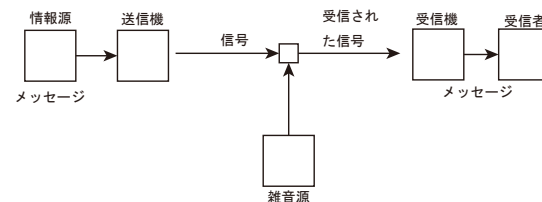


図1-ワレン・ウィーバーの「通信モデル」

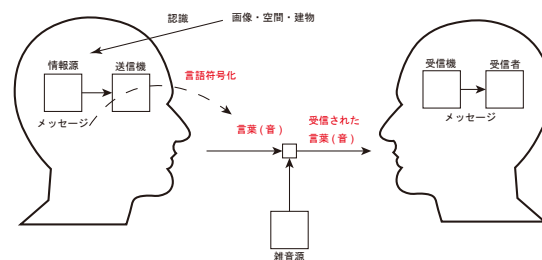


図2-人の情報伝達モデル

3. プレ調査

本調査では、建築画像を用いその写真について説明させることで、「分かりやすい説明とは何なのか」を明らかにすることを目的とする。

□調査方法

日本大学生産工学部建築工学科の1学年3名、4学年6名(意匠研究室3名、構造研究室3名)の学生を対象に行った。建築の写真6枚、建築内部の写真2枚、計8枚(図3)をみせ「この写真を知らない人に分かりやすいように伝えて下さい」と質問をし口頭で説明を得た。その説明を録音し文字起こしした後、説明がどのようなになっているのか構造化(図4)を行う。

□仮説

参考文献(1)では空間配列型という、空間的に認識した対象(国旗、絵)を幾つかの要素に分類し、優先順位をつけた上で空間を分かりやすく伝える言語技術としての説明方法が示されている。これは、「大きい物から小さい物」へと掛けて説明していくのが基本的とされているおり、地図や絵の説明として利用されており、この説明方法は、建築の写真の説明に応用することが可能であると考えられる。(図4)

□結果

図5、6のようにフローチャートとして分類を行った。その結果、図5のような大まかな部分を説明し、その細かい部分を説明する物がほとんどであった。しかし、図6のように、一つ一つの説明に繋がりがなく、構造として「分散」している物も見受けられた。これより、構造として全体からどんどん細かい部分を説明する「順序型」、説明に繋がりがなく「分散型」の文構造が見られた。

4. 今後の展開

今回、説明文を構造化することに依って2種類の文構造が得られたが、分かりやすい文構造までは至らなかった。今後として、「この写真を知らない人に分かりやすいように伝えて下さい」という質問に曖昧な点が見られたため意図した回答にならないものがでた。回答の分散を減らすため質問を見直した上で、より回答数を増やしていきたい。その上で、今回は大まかな分類しか出なかったためより、細かい構造化をはかり、その構造に当てはめ例文を作り、説明しその建築はどれか回答してもらおうなど、どの文構造がわかりやすいものなのか調査を進めていく。

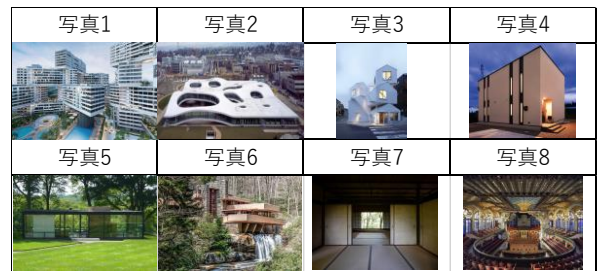


図3-建築写真・建築内写真

参考文献(1)引用

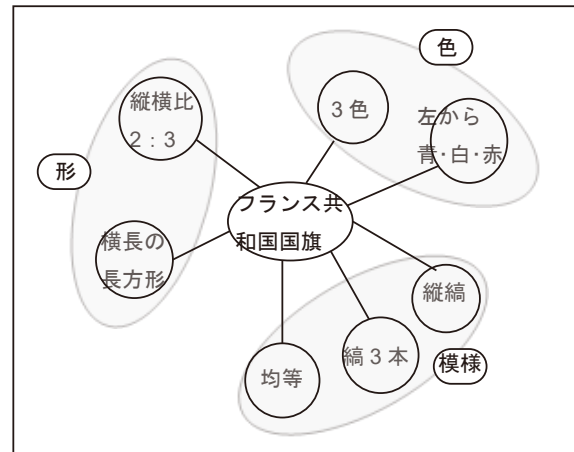


図4-例) 空間配列型フランス国旗

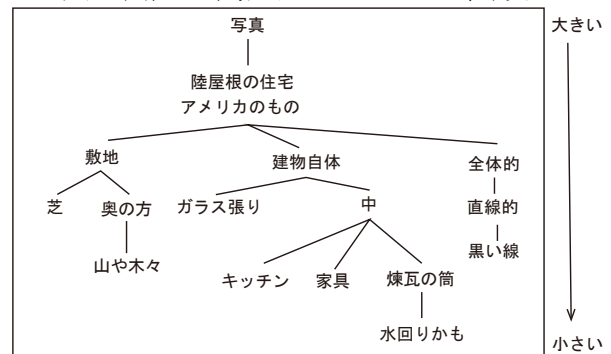


図5-構造化「大から小」

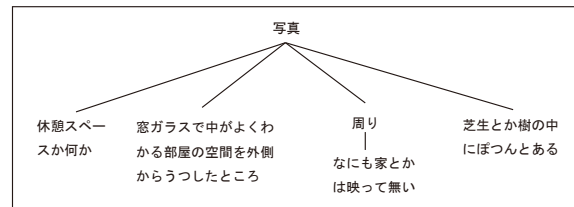


図6-構造化「分散」

参考文献

- 1) 三森ゆりか「ビジネスパーソンの為の「言語技術」超入門-プレゼン・レポート・交渉の必勝法-」中公新書ラクレ(2021)
- 2) クロード・E.シャノン、ワレン・ウィーバー、植松友彦訳「通信の数学的理論」ちくま学芸文庫(2009)
- 3) 著坂本聡「国語が得意科目になる「お絵かき」トレーニング」Discover(2016)